

行橋市立延永小学校学校通信
(2019年・令和元年度)

延小だより No.7

水無月 June 6月6日 発行

【学校目標】
豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成

《校訓》 勤 勉

◇ めざす子ども ◇

- ☆ 思いやりの心を持ち、素直で明るい子ども
- ☆ 自ら意欲的に学び、すすんで汗をかく子ども
- ☆ 地域に愛される元気な子ども

挨拶の力で子どもの心に光を届ける



子どもたちと私の一日のスタートは「おはよう」「おはようございます」の言葉で始まります。何の変哲もない言葉ですが、声に出すことによって力になります。ある男の子は、にこやかな表情で私を見つめながら、「校長先生、おはようございます」と言ってくれます。そのような挨拶をしてくれると、その子どもの「おはようございます」の言葉が光となり、私の心に広がってくるのを感じます。また、ある女の子の挨拶は、けっして大きな声ではないのですが、「おはようございます」の言葉に、強い思いが込められているのを感じ、私の気持ちも清らかになります。

日本人が交わすこのような「おはよう」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶の言葉は、その後ろの言葉が省略されたものと聞いたことがあります。本来は、「おはよう、ご機嫌いかがですか」とか「さようなら、明日も会いたいですね」などの言葉があったのが、あいさつの言葉として短くなり、概して、前の言葉だけが交わされるようになったものだそうです。ですので、学校では「おはよう、いい挨拶ができたね」とか「さようなら、気をつけて帰ろうね」などとひと言付け加えて、声をかけるようにしています。つまり、それだけでも力のある挨拶の言葉に、ひと言加えることで、相手に届く言葉の光がさらに強くなるのです。

ぜひ、ご家庭でも、朝起きたら「おはよう、よく眠れたかな」などの言葉を明るく投げかけ、子どもの心に光を与えてください。そうすることで、子どもも自分も、晴れやかな気分になると思います。よろしくお願いします。

としょママの読書支援活動について

〈 読み聞かせ5つの効果 〉 ～ 心と知能がぐんぐん育つ ～

- ① コミュニケーションが深まり(子どもとの)絆が増す
- ② 集中力がつく
- ③ 想像力・知的好奇心が育つ
- ④ 語彙こいが増える
- ⑤ 本好きな子どもになる

といわれています。

【令和元年度の「としょママ」紹介】～ よろしくお願ひします ～

竹下玲子さん	早田宏美さん	伊藤知子さん	古賀朋恵さん
原 晶代さん	宮尾光子さん	吉田純子さん	五反田久美子さん
中園和子さん	植田友美さん	中谷 瞳さん	山城知恵さん
池谷優子さん	宮永智恵さん	田中直子さん	北島晃代さん
島本直美さん	桑野真理さん	寺本智子さん	田中直子さん
梶原恵美さん	矢鳴香織さん	松尾美里さん	

子どもたち笑顔、輝く目が印象的な朝の読み聞かせ活動ですが、としょママさんたちの毎回の工夫が、子どもたちの心をはっきりつかんでいます。ありがとうございます。



【「としょママ」による読み聞かせの様子】

6月になりました。梅雨入りも近いと思います。季節的には子どもたちの健康や安全の面で、いろいろと注意しなければならないことがたくさんあります。

昨年度も大雨が降り、急きょお迎えをお願いしましたが、子どもたちを風水害等から守るために、6月11日（火）に風水害避難訓練を行います。また、地区別集団下校を予定しています。

さらに、食中毒や熱中症なども心配されます。子どもたちの健康や安全に細心の注意を払いながら、学校の教育活動を行っていきたいと思っています。保護者の皆様のご協力とご理解をお願いいたします。



6月になりました。梅雨入りも近いと思います。季節的には子どもたちの健康や安全の面で、いろいろと注意しなければならないことがたくさんあります。

昨年度も大雨が降り、急きょお迎えをお願いしましたが、子どもたちを風水害等から守るために、6月11日（火）に風水害避難訓練を行います。また、地区別集団下校を予定しています。

さらに、食中毒や熱中症なども心配されます。子どもたちの健康や安全に細心の注意を払いながら、学校の教育活動を行っていきたいと思っています。保護者の皆様のご協力とご理解をお願いいたします。

最近、テレビや新聞で子どもに関する事件が目立っています。虐待、いじめ等の子どもが被害にあうこと、子どもが起こすこと等、多く見られます。

目の前の子どもが幸せに過ごしているか、将来どのような人に育つかなど、みんなで考えながら子育てを進めていかなければならない時代ではないでしょうか。

子育てでは、自己肯定感・自己有用感を高めることが大切です。そのためには子どもに愛情いっぱいに接することです。このうえもなく大切なものとして、あふれるような愛を子どもに注ぐことです。保護者や家族をはじめ、地域の皆様・学校の職員が子どもに向けて、しっかり真実の愛を注ぐことです。

「そんなこと言われなくても愛を注いでるよ」という声が聞こえてくるようですが、その愛は子どもの心に届いているのでしょうか。子どもの将来を見据えた愛になっているのでしょうか。

子どもの喜ぶ顔が見られるからといって、次から次へと欲しいものを与えることが愛だと考えている場合、子どもは与えられることが当たり前になってしまいます。時にはほしいものを与えない厳しさも必要です。

愛するということは、心でしっかりつながることです。うれしいことがあれば共感してもらえると心が成長します。さまざまな困難に出会ったときにそっと手を差し出してもらえたとき、自分の背中をしっかりと支える大きな手を感じたとき、子どもは健やかに成長していきます。

子どもは、受け入れられていると感じとれると安心感いっぱいになります。愛されていると受け止められるから頑張れます。人を信じられるということができるだけ子どもの頃に体得すること、それらのことで、子どもの自己肯定感・自己有用感が高まっていきます。

自分が好きになり、自分のよさに気づき、身の回りの人たちのために尽くそうという気持ちになっていくのです。

そして、その子は、将来自分の子をもった時に、きっと愛する子育てをするのです。

～川崎の事件に思うこと～